ひまわりすくわくだより

令和６年度鎌倉保育園

８月号の園だよりでお知らせいたしました「とうきょうすくわくプログラム」は、乳幼児の豊かな心の育ちをサポートするため、主体的・共同的な探究活動を通じて保育の充実を図ることを目的とした事業です。鎌倉保育園でも事業の実践を行うことにしました。ひまわり組のみんなは、動植物にとても興味関心が強く、園庭では虫を探すためにプランターの下をのぞき込み、見つけた虫をみんなで観察する姿が見られました。また、プランターで育てていた植物にも興味を示し、毎日水やりをして成長を楽しむ姿が多く見られました。そんな子供たちの姿から、他の動植物にも興味を示すかな？という思いを持ち、大きなテーマ「自然」の中から「キノコの栽培」に取り組むことにしました。

〈原木発見！〉

12 月下旬、今までカブトムシを飼育していたロッカーの上にシイタケの原木を置いてみました。登園してきた子が「先生これ何？」「カブトムシに使うの？」と興味津々。ビニール袋越しにのぞき込み「木みたいだね。」そんな子供たちに「この木から植物が生えてきます。何が生えてくるかな？」「お花が咲くの？なんだろう？」と不思議そうです。「毎日朝と夕方霧吹きでお水をあげると育つから、気が付いたお友達はお水あげてね。」と子どもたちに伝えました。水やりのお当番も考えたのですが、子どもたちが興味を持ち自発的にお世話が出来るようあえてお当番にはしませんでした。何が育つかわくわくしながらお世話がスタートしました(^^♪

〈キノコ誕生！〉

気が付いた子が「先生、お水シュッシュしてもいい？」「先生、今日お水あげた？」と毎日お世話をしてくれました。すると、小さな何かが生えてきて…

ある子が気が付きました！「先生！キノコが生えてきた！」その言葉を聞いたみんなでキノコを囲んで観察が始まりました 「ねえ、これ何キノコ？」「毒キノコじゃない？」「食べられるのかな？」「え～、キノコ嫌い～」子どもたちだけでキノコを見ながらいろいろお話していたので「正解はしいたけです！たべられるきのこだよ。」と伝えました。「食べられるんだ～」とまだ小さなキノコだったので収穫せずそのまま観察を続けました。

沢山のキノコが大きく育ったところで、子どもたちから「このキノコどうするの？」という声が上がりました。「給食でキノコ使うかな？」と聞いて見ると「スープに入ってるよ！」「キノコ食べたい！」と答えが返ってきました。そこでみんなで収穫することに。一人ひとつづつ取ると、匂いを嗅いだ子が「臭い」と鼻をつまんでみたり「いい匂いだよ」と何度も嗅いでみたり、裏がどうなっているかまじまじと見てみたりとそれぞれじっくり観察していました。その後に観察画を描いたのですが、じっくり観察した子は細かいところまで描いていたり、原木からにょきにょき生えているさまを描いてみたりと様々なキノコの絵が完成しました。

給食先生の所へ「美味しくしてください！」とお願いすると、後日中華スープに使ってくれました。キノコが苦手な子も「美味しい」と食べていましたよ(^^♪

キノコをみんなで収穫した後は、原木を少しお休みさせなければいけなかったため、子どもたちの関心は少し薄れてしまいました。それでも時々「キノコ、もう生えてこないの？」と気にする子の姿もあり、時々様子を見ては「生えてこないね」と生えてくるのを待っている様子でした。そんな原木に、なにやら深緑色のモフモフが…「先生、何か生えてきた！この緑色何？？」みんなで調べたらそれは湿気を好んでやってきたカビでした💦「残念カビが生えちゃったよー」と伝えると「キノコもう生えてこないの？」「やっぱり毒キノコ生えてくるんじゃない？」「光るキノコが生えてくるよ」と子どもたちの中ではまだキノコが生えてくることを期待しながらいろいろな考えが浮かびました。

残念ながらここでキノコの栽培は終了となりましたが、子どもたちのキノコへの関心は止まらず、あるお友達の「光るキノコはあるんだよ」の言葉からどんなキノコが世の中にはあるのかを調べました。光るキノコの画像を見せると「本当に光ってる！じゃあ赤いキノコはある？」「紫のキノコは？」と次から次へと色のリクエストが出てきました。いろいろなキノコの画像を見た後「みんなはどんなキノコがあったら嬉しい？」と質問をして子どもたちが自由に想像してキノコの絵を描いてみました。子どもたちの発想は豊かで、色とりどりの、形も様々なキノコが出来上がりました！

〈振り返り〉今回の活動を始める前から、動植物に興味を強く持っていた子どもたちですが、何が育つかわからないわくわく感の中で興味は増し、少しずつ成長する様を見て、大切に育てる気持ちが子どもたちの中にも芽生えた。興味をあまり示さなかった児もいたが、自分で想像して描く活動の中では、いろいろなキノコの発表が見られ、全員で楽しむことが出来た。年長でも、菜園やカブトムシの飼育を通し、いろいろな動植物に興味が持てるよう子どもたちの興味を拾っていきたい。